

第2回「林木育種技術戦略委員会」議事（要旨）

1 日時：平成24年2月2日（木）10:30～12:30

2 場所：日林協会館

3 議題：優良育種技術者認定
エリートツリーを用いた施業モデル 等

4 出席者の主な発言要旨

- ・優良育種技術者認定（シードマスター）は、良い制度である。若い方々も選ばれるよう育種センターも技術指導を行って欲しい。
- ・エリートツリー原種の配布について、公募時に、原種配布を受けた場合に行うべきことを示しておく方が応募者にとっては応募しやすい。
- ・今後、エリートツリーからも優れた品種が出てくることとなるが、エリートツリー由来の優良品種が、これまでの優良品種の中に埋もれてしまう恐れがある。
- ・育林経費について、育林経費のみならず最後にいくらで売れたのかという点も含めたトータルな分析がないと、経営自体がうまくいっているかどうかは分からない。
- ・実際に配布された種苗を用いてどうなるのかといった現実と試算との間に、どのような誤差があるのかといったことを林業者に分かるように説明していく必要がある。
- ・育林経費について、エリートツリーの1,500本/haが出ているが、在来品種の1,500本/haでも比較した方が良い。
- ・雄花着花性について、多いものが除かれるのであれば、それに適した表現にすべきである。
- ・民間企業が非常に興味を持っているということであるが、その人たちの力を活用した取組も必要ではないか。